

第4回 アドバイザー意見聴取

日時：2022年1月31(月)

場所：松本市役所3F大会議室

出席アドバイザー：倉田 直道先生、矢野 和之先生、久保田 尚先生、山下 裕子先生

オブザーバー参加：庁内プロジェクトチーム（関係20課）

アドバイザーの意見要旨

1 第1章～第3章

- ・松本におけるクオリティオブライフは何か、ということを知りやすく語らないといけない。
- ・暮らしは、**起業の機会がある**ということも大事。住むということだけでなく、色々なチャンスがある。チャレンジの機会がある。期待が持てる。またそれを受け入れられる土壌がある街。
- ・コロナもあり、**健康な暮らしも大事**になってきている。高齢者にとっても魅力的な暮らしであることが伝わるということも大事である。
- ・自分たちが誇れる、語れる、それが一番大事。歴史的なものや文化的なものが大事。そのため、語りたくなる暮らしは大賛成。自分たちが、自分たちの言葉で、大事なものが何かを見つめ直すことが大事。
- ・自分たちが誇れるものを常時見直していくことが大事である。松本が大好きな人と、街とのマッチングを考える必要がある。歴史、ソフトな意味での文化をしっかりと見直すことが大事である。
- ・市民の暮らしにフォーカスしていることはよく分かる。一方で、観光地でもある。全国の多くは、**観光客対市民**という対立が生じる。観光客を優しく迎え入れるようなニュアンスの記載が必要なのではないか。
- ・観光客を含めて、外から来た人に対して、長野県の中でも許容力のある街だと感じている、ホスピタリティがあるというイメージか。

2 第4章～第6章

- ・お城が中心であるということを明確に言い切してほしい。
- ・松本の魅力は、伝統的建築物などの空間が生きている。生きている暮らしが経年変化している空間に今もあるし、今っぽいものもある。動産価値と不動産価値が揃っている
- ・水が、井戸だけではない、その先にいけると良い。広報に載っているマイボトルのような話だが、そういった話が暮らしの中にあるとよい。
- ・松本における暮らしを体現したような集住、住まい方、住宅のモデルができてくるとよい。松本固有の環境を活かした新しい集合住宅があるのではないか。放っておくと効率だけの安いマンションができる。暮らしを楽しめる集合住宅の姿ができるとよい。中心市街地なので、住居だけでなく、小さなお店が入っていたり、生活支援の機能が入ってくることも大事である。

買い物難民の話も、そういったところで解決できるのではないか。子育て、高齢者も含めた生活支援の機能が入ってくることで、さらに暮らしの質が高まっていく。

他は変わるが住まいは変わらない、とならないようにしたい。大きいものではなく、小さいものが住宅と組み合わせさせてできてくるイメージである。公民連携で誘導していくことも必要ではないか。コモン的なパブリックスペースもできる。それは民地かもしれないが、それらがネットワークしていくと良い。地方だからできる暮らしがある。

- ・旧開智学校に向かうエリアは、環境の質、自然のグレードアップによって地域の価値を高めることが必要ではないか。
- ・歩行者のネットワークというと主要な道路が出てくる。路地のようなスペースの評価は別の形にしておいたほうがよい。車が入ってこないため、歩行者専用でもあり、パブリックスペースとしても機能する。
- ・日本ではネットワークというと線でつなぐイメージとなり、面で繋ぐ発想が抜けている。ウォークブルシティの議論の際に、いかに歩行者ネットワークを作るかという議論になっている。ポートランドでは20分の近隣という言い方をするが、20分で全ての生活が完結していることを調査して示している。お店にも学校にも行ける、それらが面で繋がっていることをコンセプトにしている。暮らしということでは面で捉える必要がある。
- ・ゾーン30+も始まったため、道路を一本一本美装化するのではなく、通過交通の流入抑制をそれぞれの街区でやっていくという説明がよいのではないか。
- ・歴史的な構造を反映していくということが重要である。山当ての思想なども街路の性格付けに付加できるとよい。
- ・日常の風景を書くことも大事である。松本城公園に施設を作るイメージではなく、イベントをガンガンうつイメージもないが、山並みを背景とした音楽などができると非常に贅沢である。例えば歌舞伎など、城や山を背景にできると、松本でしかできない価値のあるイベントになっていくのではないか。松本城公園はまとまったスペースを取りにくいだが、そういったことも考えられると良い。堀の中に仮設であれば舞台を設えることもできると考える。中村座も一つの資源。それらを自然などの資源と組合せることが価値となる。
- ・花いっぱい運動など、松本発のものも多くある。そういう伝統のようなものを今の時代にうまく再生させることがあってもよい。